

## 第 15 回フラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展視察

2005 年 4 月 20 日～22 日、第 15 回フラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展（通称：ファインテック・ジャパン）が東京ビッグサイトで開催された。主催はリードエグジビジョンジャパン(株)で、出展社数は過去最多の 570 社、3 日間の登録来場者数は 52,804 名と、非常に盛況であった。

液晶ディスプレイ（LCD）製造におけるガラス基板のサイズは大型化し、2005 年には第 7 世代（1950 × 2200mm）、2006 年には第 8 世代（2200 × 2400mm）のガラス基板での生産が開始される。基板の大型化に伴う歩留まり低下対策として、製造プロセスの上流工程で欠陥／不良を検出し、可能な限り修復することが求められる。オー・エイチ・ティー(株)は、非接触式静電容量検査と画像検査の 2 通りの方法で電気配線の断線／短絡の検査を行い、不良部分の配線パターンをレーザー CVD リペア装置で修復し、再検査を行うことで、歩留まりを限りなく 100% に近づけるというソリューションを発表した。

同時開催の Display 2005 では、キャノンと東芝の合併会社である SED(株)から SED（Surface-conduction Electron-emitter Display、表面伝導型電子放出素子ディスプレイ）パネルの展示があった。SED と他方式のディスプレイとの比較デモを行い、忠実な色表現、高速応答性、消費電力の低さをアピールしていた。

また、双葉電子工業が 4～11.3 インチの FED(Field Emission Display)パネルを、東北パイオニア、TDK、富士電機アドバンステクノロジー、東芝松下ディスプレイテクノロジー等が最新の有機 EL ディスプレイを出展し、注目を集めていた。

次回の第 16 回フラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展も、2006 年 4 月 19 日から 21 日まで同じ会場で開催される予定である。



展示会会場



液晶パネル/大型 PDP 向完全非接触検査装置（OHT 社ホームページより）



SED パネルの展示風景

神鋼リサーチ(株) 大西 良彦